

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 心豊かにたくましく進んで学び、共に生きる児童の育成
～大好き自分、大好き友だち、大好き藍～

目指す子どもの姿 自らの可能性を信じ、多様な他者と協力して課題解決し、
思いやりの気持ちを感じ合いながら生活する子どもの姿
変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力
e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市長立藍小学校
研究主体【校内研究推進委員会】

前年度		継続性	4月		2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
・課題解決に必要な情報を関連付ける力の育成	・算数科において「言葉、図、式」を「算数科における言語」として思考過程を表現する際に子どもたちに意識して使用するよう指導を行った。そのことで算数科における言語をもとに、設問内の情報を関連付けながら理由や根拠を説明しようとする児童が増えた(ノートより)。今後「比較」「類推」「理由」などの思考について校内研究推進委員会で整理することで「授業内容の深化」「質の高い、深い学び」の実現を図りたい。	B	・課題解決に必要な、「複数」の情報を「関連付ける」力の育成を目指した単元・授業を構成する (b・d・e)	①国語、算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を+3ポイント以上 ②質問調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上 ③質問調査で「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上	・算数では、「言葉、図、式」を関連付けて説明する活動を授業に位置付ける ・算数では授業の「めあて」「ふりかえり」に技能面と思考面両方の記述を位置付ける。特に思考面では「は・か・せ・どん」(はやく・かんたんに・せいかくに・どんときも)を合言葉に確認することで思考面を鍛えたい ・各教科等で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」場面を設定する ・各教科で、情報を収集・分類・整理し、目的に応じて情報を効果的に活用し、自己の考えを論理的に述べる発表などの学習の場を設定する		
・読書活動の充実	・次期学習指導要領改訂に向けた論点整理では、「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化について記された。「知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要」(タテ①)「思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう『質』を高めることが重要」(タテ②)「知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しい。思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい」(ヨコ)これらを含む方策の一つとして問題解決型の授業構成や探求の過程を大切に授業改善は欠かせない。今年度の学習課題の設定、「めあてとふりかえり」を継続することで本重点目標の深化を図りたい。	B	・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善を行う (b・g)	①質問調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上 ②質問調査で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上	・学習者自身が「なぜ？」と考えられるような問いを学習課題に設定する。「ひとり学び」を前時などに設定し、意見交流することで、内容だけでなく思考面も鍛える ・「めあて」「ふりかえり」を授業内に位置づけ、内容が一致するように授業構想する ・ICT、ノートなどを活用し思考過程が残るよう単元・各授業をコーディネートする ・個人の興味関心やクラスの興味関心を単元・授業内に位置づけ「何がわかったか」「何が課題で残っているか」を明確にする。課題解決のために交流するなどコミュニケーション能力の深化をはかる		
・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善	・本項目の目標「ICTを最大限活用し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」に関して、実践事例の蓄積が急務である。ICTを使うことが目的化しがちな点に留意し、次年度早期に実践例交流を行う。年間通じたICT活用、ICTを手段としたつたいた力の着実な育成を図りたい。今年度の実践を取りまとめ、次年度早期にICTの具体的な活用事例についての研修を行い、日常的にICTを活用し授業が深化するよう取り組みを進めたい。	B	・ICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う (c・d・e・f)	・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問調査で①～⑦のうち、4項目で肯定評価が70%を上回る ①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる ②分からないことがあった時に、すぐ調べることができる ③楽しみながら学習を進めることができる ④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる ⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる ⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる ⑦友達と協力しながら学習を進めることができる ・ICT機器を1日に複数回活用する	・授業・単元の言語活動をディスカッションだけでなく、グループワークやフィールドワーク、実験やプレゼンテーションなど、様々な取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを促す ・ICTを活用して、児童同士の意見交換や共同作業(共同編集)を行うことで、他者の意見や視点を尊重しながら考えを深める ・全国学力・学習状況調査質問紙調査内における項目の肯定的評価9割を目指す。		
・「学びに向かう力」を高める授業をめざして」というテーマに沿って、活用を位置付けた研究の推進副主題「表現活動を通して、子どもたちの思考を見取り、高める」について具体的な実践を蓄積する。	①今年度学校評価における保護者アンケート「子どもは宿題は毎日やっている」の肯定的評価は、87%であった。 ②質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が1日当たり2時間以上という回答、本校27.3%(全国 24.9%)でありプラス2.4%であった。 ③藍中学校区で作成している「家庭学習の手引き」に関して、今後も意識の徹底と保護者への啓発を行う。運用について、授業内容を事前に宿題として考えて来た後、授業で内容を深める学習やICTの「みんなボード」を活用した共同学習製作物の進展に取り組みたい。	B	・家庭における学習習慣の確立 (c・f)	①学校評価における、保護者アンケートで、「子どもは家庭で計画的に学習を進めている」の項目で80%以上が肯定評価となるようにする ②質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が1日当たり2時間以上という回答が全国平均以上 ③児童に「家庭学習の手引き」の意識をつくる	・市発行の「ひとり学びへの手引き」をもとに、「家庭学習の手引き」を低・中・高学年向けに作成している。「家庭学習の手引き」の活用と活用実態をさぐり、効果的な運用を目指す ・マイルストーンを活用した家庭学習に取り組み、日々の学習の振り返りを児童、保護者、担任間で共有しながら進める		
・学力向上に向けた小・中連携の推進	・中学校区学力向上部会において「語彙力の向上」「基礎学力の定着」等を目的に図書館教育の実践例が交流された。次年度も引き続き、実践例を交流することや取り組みを進めることが確認された。 ・「書くこと」を重視した日常の取り組み(ノート指導・ICT活用を含む)をすすめる。子どもたちが「書きあわしたもの」にどのような思考が見て取れるのか、分析を重ねたい。	B	・基礎学力や目まぐるしく変化する予測困難な時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進 (a・b・d)	・「適切な情報収集活用力」「迅速な意思決定力」「臨機応変な課題対応力」などを身につける授業を実践・成果物・子どもの姿で情報共有する ①年1回の教科合同研修会の開催と、教務等による学力向上に向けた小中連絡会を学期に1回以上(年3回以上)開催する ②全国学力・学習状況調査の各教科における平均正答率を前年度以上にする	・学力向上に向けて、児童生徒に身につけさせたい資質について、中学校区での共有を図る ※研究成果も共有 ・小・中共に、「複数の情報を関連付ける学習の充実」と「自己の考えを論理的に表現する学習」について、授業改善を進めていく ・全国学力・学習状況調査の合同分析を教務担当で行い、その後合同の研修会を開催する		
・家庭における学習習慣の確立	・学校図書館を活用した実践(ビブリオバトル・貸出し冊数0の本を教え・推し本活動・本のコレクションなど)を中学校区に配布し実践交流を行った。 ・学校図書館利用の推進を目的に委員会活動を推進した。 ・中学校区学力向上部会において、基礎学力を支える重要な取り組みとして図書館教育を捉えること、図書館教育の実践事例のさらなる積み重ねを行う。令和8年度も中学校区において実践事例交流を行うことで確認が来ている。引き続き学校司書と連携し、取り組みを進めたい。	B	・読書活動の充実 (a・d・f)	・子どもにとって「情報を『集める』『整理する』『活用する』」力を養う。 ・読書を通じて豊かな情操や言語感覚、想像力を育成する。 ・図書館資料やICT機器を組み合わせ、批判的に情報を扱うリテラシーを育てる ・学校司書と連携し児童の調べ学習や読書活動を支援する	・学力学習状況調査質問紙項目において、肯定的評価を8割に高める ・藍中学校区内で読書活動の実践資料を交流することで、読書活動が教育的効果があることの確認を行っていく		

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず